

## 【質疑応答要旨】

【記者】 新型コロナウイルス関係で、市独自の政策に対してどう評価するか。また、現状どういった懸念があるか。

【市】 市民の皆さんの安全確保、感染拡大防止が最重要であるという一貫した方針のもと、できる限りスピード感を持って職員も子ども全力を挙げ、ぶれることなくやってきたと評価している。

特別定額給付金についても、5月1日にオンライン申請をスタートして、7日に最初の振り込みが実施できたのは県内でも最速だったのではないかと。

全国的にも緊急事態宣言が解除され、経済対策など国、県と連携してやっていかなければいけないが、やはり課題は、新型コロナウイルス感染症の第2波、再拡大。学校等も再開をするし、公共施設や事業も再開をしていく中、コロナ危機下の市民生活の生活様式も含めたあり方を、市としてもいろいろな事業の中で模索していかなければいけない。

【記者】 マスク等の寄贈について、どのように受け止めているか。

【市】 非常に多くの企業、団体、あるいは個人の方から自発的に申し出があつて、これだけの寄贈を頂いているという状況。マスク等についても、ここ数日はほぼ毎日、複数件の寄贈がある。地域、地元、出身地、出身校といったことに対して、少しでも役に立ちたいという思いを持って自主的・自発的に寄贈という対応をしていただいております、大変有り難いと感謝をしています。

【記者】 登下校のときにずっとマスクをすることで、熱中症で倒れる子どもが増えるのではないかと懸念があるが、どう考えるか。

【市】 5月28日の段階で、下校時の気温が高いときは、距離を1メートル以上空けて、マスクなしで集団下校も可ということと、熱中症対策で首等に冷却剤などを巻いて登下校させることについても可ということで、全校に指示をした。この先、かなり暑くなることが予想されるため、十分に配慮してやっていきたい。

【記者】 クーラーは全校設置されているのか。

【市】 普通教室については全校。特別教室については、一部の建て替えた学校については特別教室にもついているところがあるが、全校ではない。今年以降順次、特別教室にもエアコンを設置する予算を計上している。小学校、中学校が全部完了するのは令和4年度である。

【記者】 不足している次亜塩素酸ソーダと、寄贈された次亜塩素酸水溶液は同じものか。

【市】 物としては別のもので、消毒の対象によって使い分ける。

【記者】 水溶液の方は足りているのか。

【市】 消毒液については、足りているというよりは、今後も消毒を行うので、寄附をいただきたい。備蓄もしていきたい。

【記者】 今これだけ備蓄があって何か月分に相当するのか、例えばN95マスクだと、市民病院では1日これぐらいのペースで消費されているとか、何か不足しているということが具体的に分かるような例を示せるものはあるか。

【市】 細かい数字までは分かりかねるが、N95マスクは、例えば消防署だと1カ月で1,000枚程度必要という報告がある。消毒液は使い方によるので、量としては申し上げにくい。市民病院での除菌クロスは、1カ月で5万枚程度は必要という話を聞いている。